

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873300735		
法人名	有限会社あおいとり		
事業所名	グループホームあおいとりA棟		
所在地	茨城県那珂市飯田2388-5		
自己評価作成日	令和 1年 9月 26日	評価結果市町村受理日	令和 2年 1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873300735-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和元年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・基本理念を職員全員が共有し、利用者様が楽しく、穏やかに過ごしていただけるよう支援しています。

・利用者様一人ひとりの能力に応じた役割を担っていただき、また、趣味に応じた行事を取り入れ、無理なく刺激を感じながら日常生活を楽しんでいただけるよう支援しています。

・20代から、幅広い年齢層のスタッフが揃っています。

・四季を感じられる「イベント」や「会話」を楽しむことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は林や木々に囲まれた住宅街の一角にあり、利用者や職員は天気の良い日には近隣を散歩し季節を感じ、地域住民と挨拶を交わしている。

系列の障害者就労支援事業所で収穫した季節の野菜を食材に取り入れ、提供している食事やおやつはすべて手作りし、利用者や職員の楽しみとなっている。

職員間のコミュニケーションが取れており、和やかな雰囲気の中で利用者に寄り添っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で読み上げることで改めて実感することができ、実践につなげることが出来ている	ユニット間の廊下に掲示するとともに、朝礼時に唱和して意識付けをしている。地域との交流を続けながら、常に利用者に寄り添った支援をするように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域の行事を教えていただき、地域のお祭りなどに参加している。散歩に行った時は近隣住民と言葉を交わしたり、ボランティアも受け入れ交流の機会も作られている	散歩に出て近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜のおすそ分けをもらったりしている。小中学生の職場体験や福祉体験を受け入れている。地域の祭りに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアを受け入れることや学生の職場体験などで支援の方法や認知症に対する理解を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や利用者の生活状況も報告し、意見を出して頂き、勉強会を設けて話し合い、サービスの向上に取り組んでいる	定期的に開催し、地域行事の情報をもらうようにしているほか、毎回身体拘束適正化委員会について、また適宜ヒヤリハットや感染症についてなど議題に取り上げて話し合い、理解を深めるようにしている。オレンジカフェの状況報告なども行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	理解できないことや相談等がある時は、電話や直接市役所に出向き積極的に協力関係を築けるよう取り組んでいる	利用者の要介護申請や法改正の疑問点、生活保護利用者の相談、入居相談などについて訪問や電話で問い合わせるほか、季節ごとの感染症に対する情報等を得られるような良好な関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について学ぶ機会を設け、すべての職員が理解した上でケアに取り組んでいる。午前中のみ玄関の施錠は外している	職員は身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアの支援に努めている。防犯上玄関は施錠しているが、午前中など時間帯により解錠に努めている。介護従事者による高齢者虐待の防止・早期発見のための指針を掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学ぶ機会を設け、その都度職員間で話し合い、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を利用していた利用者もいた。勉強会で定期的に学ぶ機会を設け、入所後に必要な利用者がある場合でも対応できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解除の際にも、本人・家族の意見を尊重し、理解・納得が得られるよう十分な話し合いをしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々声かけをし、家族などには来園児に意見・要望を聞いている。また、運営推進会議で話し合いの場を設けそれらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口と対応者を明示するとともに、意見箱を玄関に設置している。利用者からは日々の会話を通じて、家族等からは面会時等や電話で意見・要望を聞くようにしているが、家族等からの本音を聞き出すまでには至っていない。	家族に無記名アンケートの実施と結果を周知するように期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	短時間ではあるが、勤務時間内に意見などを言える機会がある。それをもとに勉強会などで話し合っている	日頃から話し易い雰囲気づくりに努めるとともに、月1回の職員会議時に意見や要望を聴いている。物品購入や勤務形態など、出た意見に対しては迅速に対応し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を取り易くするよう、日頃から職員との関係を大切にしている。個人個人にあった働きやすい環境が作れるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を設け、初心者には働きながらトレーニングをすることに力を入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・行事等でほかの事業所の職員と交流し、意見交換をすることでサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から本人・家族・関係者から聞き取りを行い、本人の不安を取り除き、安心を確保するように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、本人・家族・関係者から話を聞き、要望に沿ったサービスが提供できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族などが必要と支援を見極め、その都度変更可とし、十分なサービスが提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側の関係ではなく、一緒に過ごす時間の中で安心できる関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た際は、個別に会話が出る様工夫し、外出又は外泊もあり、いつでも家族との繋がりを応援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に馴染みの物を持参して頂いている。また、ドライブなどで馴染みのある地域へ出向くこともある	入居時の相談や利用者・家族等からの聞き取りで把握している。馴染みの地域へドライブに出かけたり、年賀状や手紙のやりとりの支援を行って、関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通して、利用者同士がコミュニケーションを取れるようにしている。参加できない利用者は、職員が話をして孤立しないよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の方より物品の援助などもあり、退所後も関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が穏やかに暮らせるように話を聞き、うまく伝えられない人は家族からも話を聴くなどして、本人や家族の希望に沿えるようにしている	日々の会話や、支援を通じて、利用者の思いや意向を把握している。思いの表出が困難な利用者にはうなずきなど表情から察知するようにしている。看護師の立場からは、痛い、眠れないなどの訴えを聞き対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などから話を聞き、サマリー等の情報から職員全員で話し合い、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時の申し送り等から一人ひとりの状態を把握している。また、その都度職員間で報告・連絡・相談ができています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見・現状を参考に勉強会などで話し合い、継続や中止、新たな課題を見い出している	定例の職員・ケース会議を行い、その内容をプランに反映している。それぞれのケアプランに合わせて、半年から1年でモニタリングと見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や実践などを日報・ケース記録に細かく記入することで、職員間での共有・見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて職員間で話し合い、様々なニーズに対応できるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域資源を把握し、地域の行事の参加などを通して、本人が楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、入所前からのかかりつけ医の受診か、月2回の訪問診療を受けるかなどで適切な医療が受けられるよう支援している	かかりつけ医への受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。受診連携ノートを活用している。職員が記載して家族が持参し、主治医からも連携ノートに診察状況の記載がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づき次第、職員同士で話し合い、看護師に相談し、支持を受けている。看護師と職員が情報を共有し、適切な受診が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に面会に行き、病院関係者と情報を交換し関係を築いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族や本人の意向を確認し、状況によってその都度話し合いの場を設けている。体調に変化があった場合は、安心してケアができるように情報を共有している	重度化や看取りに関する同意書がある。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行っており、看取り期になったら職員間で再確認している。年1回常勤看護師による内部研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署などで行う救命講習会などへ参加し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2階の消防訓練、消火訓練・利用者の移動訓練を行っている。災害時には地域の方が井戸水の提供をして下さる	夜間想定を含む避難訓練を行って、訓練後は反省会を行い、課題について話し合っている。災害時等に備えて近隣の井戸の提供はあるが、避難訓練に参加協力を得るまでには至っていない。	反省点を次回の課題として活かせるような書類の工夫と備蓄品の一覧表の作成を期待すると共に、避難訓練に地域住民の参加を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、ゆっくりと分かりやすい言葉で対応している。トイレや着替えなどはプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、わかりやすい言葉かけに配慮している。個人情報と肖像権に関する同意書があるが、一枚になっている。人権尊重や守秘義務に関しては就業規則に定めており、入職時に確認している。	個人情報に関する同意書、項目について選択ができる肖像権に関する書類の整備とプライバシーに関する研修の実施を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を大切にし、希望を聞きながら、自己決定が出来る環境を作るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を優先し、ホールや居室で過ごすなど、本人のペースを大切に、無理にペースを崩さないよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重した上で、身だしなみやおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食器の片付けなど、出来る方には手伝っていただいたり、食べたい物をメニューに取り入れたりしている。食事の時間は、職員も一緒に摂り、楽しい時間になるよう支援している	同法人障害者就労支援事業所の畑があり、そこで栽培した季節の野菜も食材に取り入れている。利用者は調理の補助や食器の片付けなど、能力に応じた手伝いをしている。職員は利用者と同じテーブルにつき、介助や声かけをしながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、その方に合った食事を提供している。食事量が少ない時は、主治医の指示のもと、エンシュアなどの栄養補助剤を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きや入れ歯掃除の声かけ・見守りを行っている。自分でできない方は、職員がついて、うがいや歯磨きティッシュで行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を記入することで、排泄のリズムをつかみ、トイレで排泄できるよう、自立にむけた支援を行っている	朝食時に乳酸菌飲料を、おやつにヨーグルトを提供するなどして排便コントロールを継続している。また利用者の排泄パターンを把握し、声掛けをしてトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂っていただき、適度な運動をして頂くとともに、ヨーグルトやヤクルトなども提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や状況に応じて入浴している	基本週2回午後からとなっているが、利用者の意向にそっていつでも入れるよう支援している。ゆず湯などで季節感が味わえるようにしている。足浴や清拭にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は体を動かし、たまに音楽を聴いたりして休息し、晴れた日には布団を干し、雨の日には布団乾燥機をかけるなどをし、気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を渡す前に、日付・名前を確認し、きちんと服薬出来るよう見守りをしている。内服している薬の説明書を職員がいつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分にも何か手伝いができるという思いに寄り添い、役割分担をし、喜んで役割を果たしたいと思えるよう支援している。気分転換にトランプや将棋倒しなどを行い、活気ある生活を楽しめるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などは出来るだけ行くようにし、祭りや地域のイベントなど、本人の希望に合わせて出かけている	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺の散歩に出かけ近隣の方たちと挨拶を交わしたり、買い物にも出かけている。玄関前で外気浴を行っている。年間行事計画を立てて、車いすの利用者も一緒に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方はお金を管理する事が難しく、職員がついて買い物をしたりしている。支払いをお願いするときもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、手紙を書いていたいたり、電話をかけたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目に見える所に温度・湿度計を置き、温度管理を徹底して行っている。季節に合わせて置き物や花を飾り、雰囲気を変え、居心地良く過ごせるようにしている	民家のようなたたずまいで、廊下には天窓を設け明るくなるよう設計されている。玄関前の庭にテーブルと椅子を設置し、外気浴ができるよう工夫をしている。居間兼食堂にはソファを設置して、利用者間の交流の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、好きな所に座っていただいている。利用者同士でオセロや会話を楽しんだり、基本的には自由に過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れたものを居室に置いて、居心地良く過ごせようようにしている	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。利用者や家族等には使い慣れた物を持ち込むように声掛けを行い、持ち込んでもらっており、各々のその人らしさが表れた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」などと大きい図案でよく分かるように掲示したり、通路に邪魔になるような物を置かないようにして、安全かつ自立した生活が送れるようにしている		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームあおいとり

作成日 令和 2年 1月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	個人情報と肖像権に関する同意書はあるが、肖像権の項目について選択ができるよう書類を整備するまでには至っていない。また、プライバシーに関する研修を実施するまでには至っていない。	個人情報に関する同意書、項目について選択できる肖像権に関する書類を整備するとともに、プライバシーに関する研修を実施する。	・個人情報と肖像権に関する書類を整備し、利用者様や家族様に同意を得る。 ・外部研修や社内研修にてプライバシーに関する研修を実施する。	10ヶ月
2	35	避難訓練に地域住民の参加までには至っていない。	避難訓練後の反省点を次回の課題と活かせるような書類の工夫と、備蓄品の一覧表を作成するとともに、避難訓練に地域住民の参加の協力を得る。	・避難訓練後の反省点を次回の課題として活かせるような書類を作成する。 ・備蓄品の一覧表を作成する。 ・避難訓練後の反省点から、どのような形で地域住民に訓練への参加協力を得るか、勉強会などで話し合う。	10ヶ月
3	10	家族等から面会時等や電話で意見・要望を聞くようにしているが、家族等から本音を聞き出すまでには至っていない。	家族に無記名アンケートの実施と結果を周知する。	・勉強会などで家族様に聞いてみたい項目を話し合い、無記名アンケートを実施する。 ・アンケートの結果を家族様に周知する。	10ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。